

令和5年度 十勝農試 定期作況報告 大豆

月	作況	事由
6月20日	やや良	播種期は平年より4日早い5月17日であった。播種後の降雨により土壌水分が十分にあったことから、出芽は斉一であった。出芽期は平年より4日早い5月28日で、出芽率は平年を上回った。出芽後の気温が平年並〜高く、適度な降雨があったことから、主茎長、主茎節数ともに平年をやや上回っている。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
7月20日	やや良	6月下旬〜7月中旬は気温が高く経過したため、開花始は平年より8日早かった。主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年を上回り、7月中旬の降雨により、“中”程度の倒伏が発生している。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	やや良	7月下旬以降、気温が高く経過し、7月下旬は日照時間も長かったことから、着莢、登熟は順調に進んだ。主茎長、主茎節数、分枝数、着莢数ともに平年を上回っている。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
9月20日	やや良	平年よりも気温が高く推移したため登熟が順調に進み、成熟期は平年よりも7日早かった。9月上旬のまとまった降雨の影響で“多〜甚”程度の倒伏が発生しているものの、主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年を上回り、着莢数は平年を大きく上回っている。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
10月20日	良	倒伏の影響で屑粒率(未熟粒)が平年よりやや高かったが、百粒重は平年並で着莢数、一莢内粒数は平年を上回ったため、子実重は平年対比112%となった。 以上のことから、現在の作況は良である。
11月20日	良	播種期は平年より4日早かった。播種後の降雨により土壌水分が十分にあったことから出芽は斉一で、出芽期は平年より4日早く、出芽率は平年を上回った。6月下旬〜7月中旬は気温が高く経過したため、開花始は平年より8日早かった。開花期以降も気温が高く経過し、7月下旬は日照時間が長かったことから登熟が順調に進み、成熟期は平年よりも7日早かった。9月上旬のまとまった降雨の影響で“多〜甚”程度の倒伏が発生したため、屑粒率(未熟粒)が平年よりやや高かったが、百粒重は平年並で着莢数、一莢内粒数は平年を上回り、子実重は平年対比112%となった。検査等級は2中で、平年並であった。 以上のことから、本年の作況は良である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)	5.17	5.21	△4	
出芽期(月日)	5.28	6.1	△4	
出芽率(%) ³⁾	95.6	91.7	3.9	
開花始(月日)	7.7	7.15	△8	
成熟期(月日)	9.17	9.24	△7	
主茎長 (cm)	6月20日	16.4	12.2	4.2
	7月20日	82.8	59.8	23.0
	8月20日	82.8	71.5	11.3
	9月20日	79.4	70.9	8.5
	成熟期	79.4	70.0	9.4
主茎節数 (節)	6月20日	3.6	2.9	0.7
	7月20日	10.8	10.0	0.8
	8月20日	11.1	10.7	0.4
	9月20日	11.4	10.8	0.6
	成熟期	11.4	10.6	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	6.8	4.5	2.3
	8月20日	5.7	5.2	0.5
	9月20日	5.5	4.9	0.6
	成熟期	5.5	4.9	0.6
着莢数 (莢/株)	8月20日	87.9	69.7	18.2
	9月20日	92.1	71.0	21.1
	成熟期	92.1	71.5	20.6
一莢内粒数(粒)	2.00	1.80	0.20	
子実重(kg/10a) ⁴⁾	417	373	44	
百粒重(g) ⁴⁾	36.9	37.2	△0.3	
屑粒率(%)	5.5	4.3	1.2	
品質(検査等級) ⁵⁾	2中	2中	-	
子実重対平年比(%)	112	100	12	

備考1) 平年値は、前7か年中、令和4年(最豊年)及び平成28年(最凶年)を除く5か年平均である。

- 2) △は、平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。
- 3) 間引き直前に調査した値。
- 4) 水分含量15%に換算した値。
- 5) 農産物検査による等級。2等・3等は上・中・下に分けた。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	株間(cm)	1株本数	株数(株/10a)	播種期(月日)	種子処理
16.8	3	アカローハ	60	20	2	8,333	5.17	クルーザーMAXX
施肥量(kg/10a)								
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他			
1.8	15.0	7.8	3.0	なし	なし			